

2018～2020年の利尻島沿岸における ニシン (*Clupea pallasii*) の群来の発生状況

富岡森理¹⁾・山谷文人²⁾・那須俊宏³⁾

¹⁾ 〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

²⁾ 〒097-0101 北海道利尻郡利尻富士町鴛泊字富士野 利尻富士町教育委員会

³⁾ 〒097-0101 北海道利尻郡利尻富士町鴛泊字栄町 宗谷地区水産技術普及指導所 利尻支所

Records of the Group Spawning of Pacific Herrings (*Clupea pallasii*) from 2018 to 2020 in Rishiri Island

Shinri TOMIOKA¹⁾, Fumito YAMAYA²⁾ and Toshihiro NASU³⁾

¹⁾Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri, Hokkaido, 097-0311 Japan

²⁾Rishirifuji Town Board of Education, Oshidomari, Rishirifuji, Hokkaido, 097-0101 Japan

³⁾Rishiri Fisheries Extension Office, Oshidomari, Rishirifuji, Hokkaido, 097-0101 Japan

Abstract. The group spawning of pacific herrings (*Clupea pallasii*) occurred eight times from April 2018 to November 2020 in Rishiri Island, Hokkaido, northern Japan. We report their date and location of occurrence.

はじめに

「くき」は、ニシン *Clupea pallasii* Valenciennes, 1847 (図1) が潮間帯や亜潮間帯の海藻や海草に群で来遊し、一斉に産卵と放精を行うことによって、周囲の海水が白濁することであり(田村・大久保, 1953a), 「群来」と当て字された(今田, 1986)。北海道の沿岸域では、3～6月ごろにニシンが来遊し、産卵と放精を行うことが知られ(尼岡ほか, 1995), 道内各地で群来が起こっていたと考えられる。この時期に来遊したニシンは春ニシンとよばれ、建網や刺網を用いて漁獲されていた。1910～1959年における全道の最大漁獲量は761,500トンにものぼっている(今田, 1986)。しかし、1945年以降、ニシン資源は減少傾向をたどり、1958年以降、群れで来遊することはなくなった(近藤, 1966)。このニシン資源の減少は漁獲努力量の増加による人為的要因と海洋環境の変動による自然的要因が挙げられている(小林, 2002)。利尻島では、1857年にはニシン漁場が開かれ、

明治時代初期には出稼ぎ漁業者による集落が形成されていた(利尻町, 2000)。ニシンの漁獲量は1880年から記録が残されており、ニシン漁がさかんに行われていた1956年までの76年間においては、多い年で約105,596トン、大凶漁といわれた1930年においても約4,368トンもの漁獲が報告されていたことから(利尻富士町, 1998), 利尻島沿岸域にも多数のニシンが来遊していたと考えられる。群来が発生した場所や日に関する記録はほとんど残されていないものの、ニシンの漁期には群



図1. 2020年4月11日に南浜で採集されたニシン(RTMPIS36)。



図2. 昭和13年頃と推測される利尻島近海（鬼脇沖？）で発生した群来の写真（工藤誠一郎氏提供）。

来が起きていたことが写真にも残されており（図2）、漁場がにぎわっていたことが語り継がれている（e.g. 佐藤，1997；木暮，2001）。1957年以降においては、多い年でも618トン程度の漁獲にとどまっており（利尻町史，1989）、来遊するニシンの個体数も激減したと推測される。

本稿では、2018～2020年の利尻島内における群来の発生状況について、その日付と地点を報告する。

記録

宗谷地区水産技術普及指導所利尻支所、利尻富士町役場、利尻町役場による記録、筆者の現地調査によって確認された発生状況を以下に記す。記録は、月日、場所の順に示した。現地調査や聞き取りによって詳細な位置を確認できたものについては、その地点を図3に図示し、写真を撮影できたもの、提供していただいたものについては図4に示した。

2018年

発生なし

2019年

5月2日、利尻富士町本泊（図3、地点A；図4A）・大磯

2020年

4月11日、利尻富士町南浜（図3、地点B；図

4B)

4月29日、利尻富士町富士岬

4月30日、利尻富士町大磯・本泊（図3、地点A；図4C)

5月6日、利尻富士町大磯（図3、地点C；図4D)

5月8日、利尻富士町富士岬

5月10日、利尻富士町湾内

5月11日、利尻富士町大磯

利尻島内では2018年には群来の発生は確認されなかったが、2019年には1回、2020年には7回の発生が確認されている。利尻島では、1951～1955年に島内各地で発生したことが報告されているほか（田村ほか，1951，1954，1955；田村・大久保，1953a，1953b）、1956年には島内では発生しなかったことが報告されているもの（大東・内山，1956）、1950年以前および1957年以降については発生の有無、発生した場合の日付や地点に関する記録は、ほとんど残されていない。1957年以降においても、利尻町からは1957年、1969～1976年、1983～1984年、1987年に（利尻町、



図3. 2019年～2020年に群来が発生した地点（著者によって詳細な位置情報を確認できた地点のみを含む）。A、本泊漁港周辺；B、南浜漁港周辺；C、大磯。



図4. 利尻島内で発生した群来の写真。A, 2019年5月2日, 本泊漁港(高橋渡氏提供); B, 2020年4月11日, 南浜漁港; C, 2020年4月30日, 本泊(佐藤雅彦氏提供); D, 2020年5月6日, 大磯(井上竜俊氏提供)。

1989), 利尻富士町からは1992～1993年にそれぞれニシンの漁獲が報告されていることから(利尻富士町, 1998), 利尻島沿岸にニシンが来遊していたと推測される。しかし, ニシンの群れが沿岸域に来遊した場合, 産卵を行うとは限らず(田村・大久保, 1953a), 索餌回遊の可能性も考えられるため, 上記期間中における群来の有無を言明することはできない。

今後も, 利尻島周辺におけるニシンの生態や資源量の把握に寄与する情報の一つとして, 利尻島沿岸における群来の発生状況の継続的な記録を行いたいと考えている。

謝辞

写真提供いただいた青森県の工藤誠一郎氏, 利尻漁業協同組合の高橋渡氏, 利尻町ウニ種苗センターの井上竜俊氏, 利尻町立博物館の佐藤雅彦氏には心より感謝申し上げます。

参考文献

- 尼岡邦夫・仲谷一宏・矢部衛, 1995. 北日本魚類大図鑑. 北日本海洋センター. 札幌. 390pp.
- 今田光夫, 1986. ニシン文化史一幻のニシン・カムイチェックー. 共同文化社. 札幌市. 295pp.
- 木暮國雄, 2001. ふるさと利尻 仙法志物語 ニシン場の周辺. 202pp. 自刊.
- 小林時正, 2002. 北海道におけるニシン漁業と資源研究(総説). 北海道立水産試験場研究報告, 62: 1-8.
- 近藤平八, 1966. 近年の「春ニシン」について. 水産海洋研究会報, (9): 147-151.
- 大東信一・内山正昭, 1956. 北海道西海岸における春ニシンの天然産卵の観察 第4報 1956年春季の群来状況並びに天然産卵の外見的観察. 孵化場試験報告, 11: 181-202.
- 利尻町, 1989. 利尻町史史料編. 利尻町. 利尻. 648pp.
- 利尻町, 2000. 利尻町史通史編. 利尻町. 利尻.

- 1162pp.
利尻富士町, 1998. 利尻富士町史. 利尻富士町.
利尻富士. 1583pp.
佐藤萬, 1997. 利尻島本泊ものがたり けっけの
け. 129pp. 自刊.
田村正・大東信一・広部武男, 1955. 北海道西海
岸に於ける春ニシンの天然産卵の観察 第3報
1955年春季の群來状況並びに苫前地区に於ける天
然産卵床の潜水観察. 孵化場試験報告, 10(1, 2):
115-131.
田村正・大久保正一, 1953a. 北海道西海岸に於け
る春ニシンの天然採卵の観察 第1報. 孵化場
試験報告, 8(1, 2): 21-32.
田村正・大久保正一, 1953b. 鯨奇子に関する調査
(第二報). 孵化場試験報告, 8(1, 2): 95-107.
田村正・大久保正一・藤田忠・広部武男, 1954.
北海道西海岸に於ける春ニシンの天然採卵の観
察 第2報 潜水調査による産卵床の観察. 孵
化場試験報告, 9(1, 2): 95-112.
田村正・小山田博・大久保正一, 1951. 鯨奇子に
関する調査 (第1報). 孵化場試験報告, 6(1, 2):
11-26.